

守山市長期ビジョン 2035（案）のパブリックコメントの結果について

1 意見募集期間

令和 7 年 10 月 6 日（月）から令和 7 年 10 月 27 日（月）まで

2 原案公表方法

(1) 備付縦覧等

市役所 3 階閲覧所、公文書館、駅前総合案内所、すこやかセンター、エルセンター、図書館、もりやまエコパーク、各地区会館、市ホームページ

(2) 市民向け説明会

- 第 1 回 日時：令和 7 年 10 月 10 日（金曜日） 午後 7 時より
場所：もりやまエコパーク交流拠点施設学習室 [参加者 0 人]
- 第 2 回 日時：令和 7 年 10 月 12 日（日曜日） 午前 9 時 30 分より
場所：守山市役所 2 階防災会議室 [参加者 0 人]
- 第 3 回 日時：令和 7 年 10 月 19 日（日曜日） 午前 10 時より
場所：もりやまエコパーク交流拠点施設学習室 [参加者 4 人]
- 第 4 回 日時：令和 7 年 10 月 22 日（水曜日） 午後 7 時より
場所：守山市役所 2 階防災会議室 [参加者 4 人]

(3) 説明動画

市公式 YouTube チャンネル（令和 7 年 10 月 6 日から公開）
140 回視聴

3 意見提出方法

持参、郵送、FAX、電子メール、意見提出フォーム等のいずれかの方法にて提出。

4 意見の件数（意見提出者数）

31 件（4 人）

5 意見の反映状況

区 分	計画の内容に対する意見等
①原案を修正するもの	15 件
②原案には反映できないもの	0 件
③既に原案に記載済みのもの	16 件
④その他	0 件
合 計	31 件

※字句修正等の意見は省略しています。

※意見の趣旨が同じものは、集約して記載しています。

6 意見等の概要とそれぞれに対する市の考え方

No.	頁	提出された意見	市の考え方	反映 区分
1	3	策定の趣旨について、取組み方の文意が不明確であり、2段落目「地域課題が複合化、複雑化し、市民一人ひとりのニーズや価値観が多様化」ということが大きな課題であれば、それを指し示すような文章にすべきと考える。	文意が分かりやすいように「1. 策定の趣旨」に記述を修正します。(P3)	①
2	3 11 14	<p>「策定の趣旨」から「将来像」へどのようにつながっていくのかが解りにくい。「今が時代の転換点である」ことを重要な切り口とするならば、次のような整理が必要と考える。</p> <p>「これまでの成長期は人口増加とともに生活の向上やまちの発展に向けて取り組んできたが、最近では地域課題の複合化・複雑化、市民ニーズの多様化、高齢化の進行がみられ、将来の人口減少も予想されている。このような時代の転換点にあるとの認識のもと、既成概念にとらわれず、変化に柔軟に対応する姿勢が重要。」</p>	<p>「策定の趣旨」から「将来像」へのつながりを明確にするため、「4. 2035 年に向けたまちづくりの姿勢」に記述を加えます。(P11)</p>	①
3	3 15	バックキャスティング方式による目指すまちの姿について、P14 が皆で共有する「未来のビジョン」、P15～16 が「目指すまちの姿」（ありたい未来像）に該当し、そこから遡って導き出された取組みが、P23～32 の「分野別政策」なのか。バックキャストして描いた方法・	バックキャスティングによる策定項目についてはご指摘のとおりです。方法・手順については、「1. 策定の趣旨」に記述を加えます。(P3)	①

		手順、バックキャスト方式を採用した理由を記載すべきである。		
4	23	長期ビジョンは、バックキャスト方式で将来像を描き、そこから遡って分野別政策を導いたのだと思うが、その方法・手順を説明すべきと考える。	「１．策定の趣旨」に記述を加えます。(P3)	①
5	4	長期ビジョンの名称について、なぜ、「第６次総合計画」ではなく「長期ビジョン」という名称を用いるのか、説明を加えるべきである。	「２．(1)長期ビジョンの位置づけと構成」に、記述を加えます。(P4)	①
6	4	長期ビジョンは、基本構想のみで従来の基本計画に該当する部分はない。その理由や個別計画との関係などについて説明を加えるべきである。	「２．(1)長期ビジョンの位置づけと構成」に記載しています。(P4)	③
7	4	長期ビジョンでは、個別具体の施策・事業は、個別計画に委ねることになっているが、市議会のチェック監視機能は働くのか。	ビジョンの進行管理について、策定後５年を目安として、分野別政策に紐づけられた分野別計画を通じた進捗評価を行い、総合計画審議会や市議会の意見を踏まえて必要な見直しを行うことを「３．ビジョンの推進」に加えます。(P5)	①
8	5	長期ビジョンは大きな方向性を示す計画であり、KPI などの指標もないため、どのような方法や体制で適切に進行管理を行うのか明示すべきである。		①
9	5	長期ビジョンの基本構想は 10 年間の計画だが、これまでのように 5 年間でローリングする基本計画は無い。いつの時点で進行管理を行うのか明示すべきである。		①
10	5	個別計画に委ねた施策・事業を統合的にチェック・調整していく機能、体制が示されておらず、どの		①

		ような方法を採るのか明記すべきである。		
11	4	地方創生プランは個別計画の位置づけであると考えるが、図では長期ビジョンと横並び同等の関係で表現されている。長期ビジョンは守山市の最上位計画ではないのか。	長期ビジョンは、市の最上位計画として位置付けています。地方創生プランは、地方創生の観点からの分野横断的な計画であり、総合計画に近い性格を持っていることから分野別計画とは異なる位置付けを行っています。 この関係を明瞭に示すため、図を修正するとともに、「個別計画」を「分野別計画」に名称変更します。(P4)	①
12	5	P5(2)計画期間の図では地方創生プランが従来の総合計画の基本計画のような位置づけで表現されているが、誤解を招く表現ではないか。 なぜ、「地方創生プラン」のみ（他の個別計画とは別扱いで）「長期ビジョン」と併記されているのか。	地方創生プランは、分野横断的な計画であり、計画期間も関連して推進していくものであることから、分野別計画とは別に位置付けて記載しています。なお、長期ビジョンは、基本構想のみで、具体の施策等については分野別計画に位置付けており、地方創生プランは、長期ビジョンの基本計画ではありません。(P5)	③
13	6	図のアンケート回収率35.6%とあるが、35.3%ではないか。 ($706 \div 2,000 = 35.3\%$) 無効票があるならば、注記で示すべきである。	ご指摘の通り、「35.3%」に修正します。(P6)	①
14	7	「笠原工業団地等への大規模な企業立地（中略）など、多様な産業が進出しています」とあるが、笠原工業団地への企業立地は確定したのか。	笠原工業団地において一部企業の立地は確定しています。(P7)	③
15	8	「守山市でも、新規住宅の供給不足などにより人口増加の鈍化がみられ」とあるが、子世代の流出、	その他の要因については「新規住宅の供給不足 <u>など</u> により」に含まれています。(P8)	③

		利便性の高い駅周辺地域の飽和などの要因も絡み合っているのではないか。		
16	11	「４．2035 年に向けたまちづくりの姿勢」(P11) の内容は、「第 1 部長期ビジョンとは」の最後 (P5) か、または「第 3 部基本構想」の最初 (P12) が適当と考えられる。「第 2 部守山市の現況」の中の項目としたことの説明を加えたほうがよい。	本項を第 2 部に置いているのは、守山市の現状や諸動向を踏まえたまちづくりの主要課題としての姿勢を示しているためです。 このことから、第 2 部の項目名を「守山市の現況と課題」に改めます。(P6)	①
17	11	「既成概念にとらわれず、変化に柔軟に対応する姿勢」(P11) とは、複合化・複雑化する地域課題や多様化する市民のニーズに対応する長期ビジョンを提示し、既成概念にとらわれない、組織横断的で柔軟な行政の取組み（推進体制）を検討することが考えられるのではないか。	「既成概念にとらわれない柔軟な姿勢」については、行政だけでなく市民・事業者も含めたすべての主体がまちづくりにおいて持つべき姿勢ととらえており、その趣旨を「1. 策定の趣旨」にも記載しています。(P3)	③
18	13	第 5 次総合計画・将来都市像の「「わ」で輝かせようふるさと守山」をつくりあげていきます」という目標を踏襲するのではなく新しい将来像に改めることの説明を加えた方がよい。	「ふるさと守山」は守山市を形づくる基盤としてこれからも育てながら守り、大切に引き継いでいくものとして掲げています。 そのことに加え、激しい時代変化や将来の人口減少を見据える中、それぞれの市民の想いや挑戦を重視する視点にたった将来都市像を設定したことを記載しています。(P14)	③
19	14	「守るために攻める」という副題はインパクトがあるが、「守る」「攻める」という二項対立の図式を作って目立たせる必要があるのか。第 5 次総合計画では「わ」（調和、	将来都市像に記している通り、このまちの良さを「守る」ために、変化を恐れずに取り組む姿勢として「攻める」と示したものです。また、第 5 次総合計画の「わ」は守るべきこ	③

		つながり、ふるさとの暖かさ)を大切にしていたものが、急に方向転換したように受け取れる。	のまちの良さとしてこれからも守り、継承していくことを記載しており、方向性を引き継いでいます。(P14)	
20	14	将来都市像の説明文「ふるさと守山」について、第5次総合計画での「つくりあげるもの」(将来像)から長期ビジョンでは「守るもの」(現在の姿)に位置づけが変わっており、立ち位置が変わっている理由の説明を加えるべきである。	これまでつくりあげてきた「ふるさと守山」については、大切に引き継いでいくものとして、記載しており、方向性を引き継いでいます。(P14)	③
21	14	将来都市像の説明文について、「今が時代の転換点」と捉えることが、なぜ、「攻める姿勢」と結びつくのか。 「時代の転換点」で考えなければならないことは、これまで守山の成長に焦点を当て、まちづくりを推進してきた状況が、今後、人口減少の局面を迎え、誰も経験したことのない「ふるさと守山」やその暮らしについて、想像力を発揮して想定し、そのための準備をしなければならないということであると思う。	人口増加が鈍化し社会課題が多様化・複雑化するという時代の転換点を迎えており、社会変化も激しく人口が伸びてきたこれまでのまちづくりへの取組姿勢だけではまちを維持していくことが難しく、ご意見いただいた視点も含めて、前例にとらわれず新たな取組に挑戦して「攻める」ことが大切であるという意味を記載しています。(P14)	③
22	18	「現在の人口年齢バランス(20～64歳:56%)を維持し、人口構造のバランスを確保していく」とあるが、20～64歳人口の構成比が2030年にピークを迎えることに着目すべきである。 「緩やかな人口増加の予測にも関わらず、就業人口に相当する20～64歳人口は減少基調に転じること	本項では、地域社会の活力を維持するために、人口の規模と年齢構成のあり方を目標として示しているものです。目標値の検討に際しては、ご提案にあるような要因分析を行い、その結果を踏まえて設定したものです。 長期ビジョン策定後も、ご指摘の要因等も参考にするとともに、引き続	③

		が推測されます。このような変化など、2035年以降の将来の人口減少の予兆（前段階の変化）を捉え、その要因を十分に分析し、将来を見据えたまちづくりを目指します」とすべきではないか。	き人口動向分析等を適切に行いながら目標人口の達成に向けて取り組んでまいります。（P18）	
23	18	将来人口に関する記述について、転入需要のみからの方向性が示されているが、転入人口のみに着目した取組みは人口対策の一面であり、全体の方針とは考えにくいと思う。	「子どもを生み育てやすい環境整備をさらに進めるとともに、子育て世代を中心とした転入需要が多く見込まれることから」と前段に出生数の増加に向けた他の取組も記載しており、転入人口のみに着目しているものではありません。（P18）	③
24	20 21	P20 図凡例と本文①～⑨の土地利用区分が一致しないため、整合を図る必要がある。	本文の記述内容は図の詳細な土地利用区分を集約して記述しています。両者の整合が図れるよう、本文の見出しに図に示された細区分を加えます。（P21）	①
25	21	「JR守山駅前の交通渋滞緩和対策に取り組む」とする一方で歩行者空間の拡充や商業地の魅力向上の記載もある。駅前活性化を掲げるのであれば、「ゆとりのある発展（開発）」、「ゆとりのある交通処理能力の確保／安全・効率的な動線計画」等の田園都市ならではの余力、ゆとりの記載も期待する。	長期ビジョンは、市全体のまちづくりの将来像と、そのために必要な分野別政策の方向性を示すものであり、駅前整備の方向性については、「22 快適な都市基盤の整備」に含めています。 具体的な施策・事業については、長期ビジョンに基づいて分野別計画で検討し必要なものを具体化してまいります。 なお、守山駅西口ロータリーの渋滞対策につきましては、現在、短期対策について検討を進めており、今後、将来を見据えたロータリーや広場のあり方等長期的な渋滞対策等について検討を進めていきたいと考えてお	③

			<p>ります。</p> <p>また、東口の整備につきましては、東口の魅力である落ち着いた雰囲気を活かしながら、「人が集まりつながる憩いとにぎわいのあるまち」をコンセプトとし、土地利用にあつては、交通結節機能を配置するとともに、必要な面積や動線について、検討しております。(P21、P30)</p>	
26	25 27	<p>吉身中町の街中で立入運動公園へ行くことができない高齢者が自宅から一步を踏み出し、軽スポーツを楽しみながら、和気あいあいと身体を動かし健康づくりを楽しんでいる姿が見られる活気ある吉身中町となるようグラウンド・ゴルフができる場所の確保を検討して欲しい。</p>	<p>長期ビジョンは、市全体のまちづくりの将来像と、そのために必要な分野別政策の方向性を示すものであり、グラウンド・ゴルフ場の整備を含む生涯スポーツの普及・促進の必要性については、「07「誰もが」「どこでも」「いつでも」スポーツできる環境づくり」「12 高齢者が生き生きと暮らせるまちづくり」「13 生涯を通した健康づくり」に含めています。具体的な施策・事業については、長期ビジョンに基づいて分野別計画で検討し、必要なものを具体化してまいります。</p> <p>なお、本市におきましては、各学区にグラウンド・ゴルフ場を設置することで、健康増進だけでなく、スポーツを通じて高齢者がいつまでもいきいきと元気に暮らしていける取り組みを進めています。吉身学区につきましては、立入河川公園にグラウンド・ゴルフ場を設置しており、加えて、土日の早朝は吉身小学校のグラウンドも利用可能となっています。</p> <p>また、立入河川公園は、もーりーカーの目的地としても設定しております。</p>	③

			<p>すので、公園までの距離がある方等は、もーりーカーを活用していただく等により、より多くの方にグラウンド・ゴルフを楽しんでいただきたいと考えております。</p> <p>(P25、27)</p>	
27	26	<p>障害者やその家族を取り巻く環境改善のため、障害福祉課等の体制改善をお願いします。具体的には、計画作成員の増員や職員能力の育成等、また障害児者事業所で働く職員の待遇改善や学びの機会の確保、専門職を含む人員の確保をお願いします。</p>	<p>長期ビジョンは、市全体のまちづくりの将来像と、そのために必要な分野別政策の方向性を示すものであり、障害者の生活を支援する体制の改善については、「11 障害者が地域の中で自立して生活できるまちづくり」に含めています。</p> <p>具体的な施策・事業については、長期ビジョンに基づいて分野別計画で検討し、必要なものを具体化してまいります。</p> <p>なお、市といたしましても、計画相談員の質の向上と充実は、課題であると認識しており、基幹相談支援センターの機能強化による計画相談員への専門的な指導・助言の充実や、人材確保のための就職支援事業補助金制度の実施など、その改善に向けて取り組んでいるところです。(P26)</p>	③
28	30	<p>「快適な生活環境の確保のための上下水道の整備を推進」とあるが、守山市では既に整備済みであり、時代の転換点として着目すべき課題は人口急増期に敷設・設置されたインフラの老朽化へ対応することである。(他の多くの公共施設にも当てはまる)</p>	<p>ご指摘に従い、上下水道だけでなくインフラ全体を対象とする老朽化への対応について記述を加えます。</p> <p>(P30)</p>	①

29	30	<p>緩やかな人口増加を継続するための具体施策が示されているが、「緩やかな人口増加」や「転入需要が多く見込まれる」という視点のみを前提としてしまうと、人口対策の一面を捉えてしまうことになる考える。</p> <p>「人口構造の変化に関する分析」を行った上で、的確な方向性を示すべきと考える。</p>	<p>本項は「都市基盤の整備」に関する政策について、人口対策の観点からも関連する取組の方向を示しているものです。(P30)</p>	③
30	30	<p>2025 年策定の「守山市立地適正化計画」では人口減少と高齢化を前提とした「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市構造を目指すことになっているが、なぜこれではなく「緩やかな人口増加の継続」を前提とした政策が示されているのか。</p>	<p>長期ビジョンにおいても、立地適正化計画と同様に、今後 10 年間の緩やかな人口増加を経て、将来的に人口減少に転じることを見据えた構想としています。(P30)</p>	③
31	33	<p>「6. 総合戦略」が「第 3 部 基本構想」の 6 番目の項目となっているが、P4「(1)長期ビジョンの位置づけと構成」の説明と整合しない。</p>	<p>ご指摘の通り、「6. 総合戦略」は削除します。(P33)</p>	①

7 最終計画（案）

別紙のとおり